

ミニふくおか 2023

個性あふれるわくわくタウン
～まちに彩りを～

事業報告書

もくじ

はじめに-----	02	クエストカード-----	20
2023年度のミニふくおか-----	03	当日市民アンケート-----	22
子ども実行委員会の活動-----	04	子ども実行委員会アンケート-----	24
サポーターの活動-----	08	サポーターアンケート-----	28
ミニミニふくおか-----	10	ボランティアアンケート-----	30
数字で見る「ミニふくおか2023」-----	12	子どものまちリーダーの視点-----	32
広報展開-----	13	サポーターの視点-----	33
ミニふくおか2023 会場マップ-----	14	実行委員の視点-----	34
ミニふくおか2023ギャラリー-----	16	おわりに-----	35



はじめに

ミニふくおか2023は、待ちに待った4年ぶりの大規模開催です。子どもたちだけでなく、私たち大人の関係者もこの時が来るのを心待ちにしていました。

そして、無事に終わった今、振り返ると「本当にやって良かった。」と感じた人が多かったのではないかと思います。

今回の開催以前のコロナ禍の影響を受けた3年間は、時代の変化に合わせてまちに対する価値観も大きく変わる期間であり、そのために「ミニふくおか」もまた変化を要求される時期でした。「どこをどう変化させれば、ミニふくおかが未来のまちにつながるものになるのか？」この問いを考える際に大切にしたいのが、ミニふくおかの事業目的とともに「ミニふくおかは子どもが主体的にまちを考える場であること」です。

これまでの積み重ねた実績をもう一度読み解き、新しいアイデアを加えながら、課題を整理しプログラムを再構成する大切な時間となったと考えています。そんなこともあり、実は今回のミニふくおかは、小さなものも含めて数えきれないくらいの変化を内在させていました。「個性あふれるわくわくタウン ～まちに彩りを～」というテーマは、まさに時代の変化を子どもたちが率先して受け入れた象徴的なものになっています。子どもたちってすごいですね。

その新しくなったミニふくおかの中でも最も特徴的なものが、新しく生まれた「クエスト」という、まちづくりを体験するお題が書かれたカード型のプログラムです。子どもたちは、このカードに書かれていることに挑戦して、クリアを目指していきます。クエストは、「自治」「福祉」「創造」「協働」「継続」という5つの視点で設定されており、ここで生まれた150種ほどのお題の多くは、子ども実行委員会の子どもたち自身が考えたものです。

また、その仕組みも子どもたち個人の体験による成長だけでなく、その体験の数が子どものまち全体に作用し、一人ひとりの想いがまちの変化には大切なことであることを経験できる仕組みになっています。

それは、これまで大切にしてきた「働く」「学ぶ」「遊ぶ」という価値にもつながり、子どもたちの可能性を引き出すことに成功していると感じました。このミニふくおかのポジティブな変化を起こすことができた要因は、子ども実行委員会やサポーターをはじめとした多くの人の未来につながる希望なんだと思います。

この報告書は、その未来につながる希望を形にしていくプロセスをメディアにしたものです。ぜひ半年以上の長い期間積み重ねてきた子どもたちの努力をご覧ください。そして子どもたちへの賛辞とこれからのミニふくおかに期待を寄せていただきたいと思います。実際に僕は、もう新しいミニふくおかに出会えることを想像して、ワクワクしています。

最後に、このかけがえのない期間を支えていただいた皆様、本当にありがとうございました。今後もミニふくおかの理念が未来へつながりますように、これからも変わらぬご支援をお願いいたします。

ミニふくおかディレクター
転野 康臣

2023年度のミニふくおか

2023年度テーマ

個性あふれるわくわくタウン ～まちに彩りを～

ミニふくおかのまちのテーマは、子ども実行委員会が中心となりアイデアを考えます。2023年もたくさんの案が提出され、投票を行った結果、一人ひとりの個性が活きる楽しいまちになるようにと想いが込められた、この案に決定しました。

サブタイトルの「～まちに彩りを～」の部分は、サポーターが中心となり、アイデアをまとめました。このテーマは、のちにミニふくおかのまちの雰囲気や会場デザインに展開していきます。



小さなまちづくりを、たくさん体験する「クエスト」の導入

ミニふくおかで「まちづくり」を体験してもらう仕組みとして、新たにクエストカードの仕組みを導入しました。クエストカードには、ミニふくおかのまちの中で体験・クリアしてほしいまちづくりのミッションが書かれています。

たくさん子どもたちがクエストにチャレンジすること

で「まちがよくなる」ことにつながり、幸せの価値「ハピ」がまちにたまっていきます。このハピの数だけ、広場に設置された大きな「ハピツリー」に花が咲いていくしかけをつくり、子どもたちみんなの頑張りの、まちの幸せが可視化されるように工夫しました。

まちづくりを考える10の指標

- まちのしくみをつくる
- みんなと仲良くなる
- やさしいまちをつくる
- まちのこまட்டාを探す
- 新しいことにチャレンジする
- まちに感動をつくる
- チームでとりくむ
- 誰かのためにはたらく
- 環境について考える
- 歴史について学ぶ

クエストカードには、5つの色の「10の指標」を設定しました。これは、クエストをクリアすることでまちがどのように良くなっていくのか、まちづくりを感覚的に捉えやすいように考えた分類です。



みんなのハピの数が可視化される「ハピツリー」

子ども実行委員会の活動

ミニふくおかでは、公募で選ばれた小学5～6年生・中学生が「子ども実行委員」となり、まちのルールやテーマ、企画などを一緒につくっています。

そして、子ども実行委員が主体となり、約半年をかけ多様性あふれる創造的な「まち」をつくるワークショップを「子ども実行委員会」と呼んでいます。高校生以上のサポーターや大人の力も借りながら、少しずつまちの形が具体化していきました。以下にそのプロセスを紹介します。



#01

ミニふくおかへようこそ！～10年後のまちを考えよう～

2023年10月22日（日）10:30～17:00 【会場】 なみきスクエア

第1回ワークショップは、小・中学生による子ども実行委員同士の顔合わせからはじまりました。アイスブレイクを兼ねた自己紹介で緊張がほぐれた後は、高宮委員長より、ミニふくおかの歴史や大切にしたいこと・守りたい約束などのお話を聞きました。

後半は、「みんなでつくる福岡市の将来計画プロジェクト」の一環として、「福岡をどんなまちにしたい?」「福岡のまちにあったらいいモノ・コト」についてそれぞれに考え、未来の福岡についての意見を出し合いました。

最後は、サポーターも合流して円陣を組み「ミニふくおか！がんばるぞー！」と元気な声が会場に響きました。



#02

ミニミニふくおか

2023年11月26日（日）11:00～16:00 【会場】 ちはや公園（ガーデンズ千早）

ミニミニふくおかは、ミニふくおかのコンテンツをみんなで楽しめるまちづくり体験イベントです。

サポーターが中心となって準備し、つくり上げてきたこのイベントに、子ども実行委員もまちの市民として参加しました。3月のミニふくおかの原型となる「クエスト」や「ショップ」、「スクール」などのブースが並び、さまざまな体験をして、ミニやハピを集めていきました。

ミニミニふくおかで体験したことが活きた感触となり、この後の子ども実行委員会でも、実施のイメージを膨らませるのに、とても役立ちました。（くわしくはP10へ）



#03

当日をイメージしてはじめよう

2023年12月3日（日）13:00～16:45 【会場】南市民センター

ミニミニふくおかを終えて1週間後の開催となった、第3回ワークショップは、ミニミニふくおかのふりかえりからスタートしました。

その後、福田委員によるまちづくりのレクチャーを受け、「ワークショップとは？まちづくりとは？」の基礎を学んだ後、グループにわかれ、サポーターと一緒に今年度のテーマ案を考えました。

グループごとにたくさんのアイデアが出され、共通のキーワードをまとめていく中で「個性あふれるわくわくタウン」がメインテーマとして決まりました。



#04

テーマにあったまちづくり

2023年12月23日（土）13:15～16:15 【会場】南市民センター

第4回目はまちづくりのワークショップ。前半は、萩野ディレクターからミニミニふくおか2023の特徴と子ども実行委員の役割についての話を聞き、新たに導入された「クエスト」を改めてみんなで体験しました。

後半は、建築家である森委員によるワークショップ。過去のミニミニふくおかの会場を例としながら、今年度はどんな会場にしたいか？自分でミニミニふくおかの計画図を描いてみよう！との宿題が出されました。



#05

都市計画を完成させよう

2024年1月7日（日）13:15～16:45 【会場】南市民センター

この回から、本番に向けての担当を決めて、チームごとの活動が始まりました。まずは、それぞれの希望をもとに、クエストや公共を担当する「しくみチーム」と、スクールやショップを担当する「仕事チーム」に分かれました。

しくみチームは、宿題で考えてきたクエストをブラッシュアップしていく作業を行いました。仕事チームは、さらに「スクール」「ショップ」「メディア」に分かれて、まちのテーマ「個性あふれるわくわくタウン」にどんなものがあつたらいいか？を出し合い、最後に共有しました。



#06

ミニふくおかのしくみづくり①

2024年1月28日（日）13:00～16:45 【会場】南市民センター

ミニふくおかまで残り2ヶ月となった第6回目のワークショップでは、ミニふくおか当日市民の動きを想像し、安全に受け入れるために「がんばってほしいこと」「守ってほしいこと」のルールが共有されました。

そして「クエスト」「市役所」「公共事業」「イベント」「ショップ」「スクール」「メディア」のチームにわかれ、自分たちの役割や、やること、今後のスケジュールについて話し合いました。



#07

ミニふくおかのしくみづくり②

2024年2月10日（土）13:00～16:45 【会場】南市民センター

前回に続き、各チームに分かれての作業の一日となりました。特に当日のスケジュールや、準備物などを出し合ってみることで、少しずつアイデアが具体化し、達成したいことや、いま足りないものなど現実的なものごとが見えてきました。回を重ねるごとに、チームワークも高まり、最後の共有（報告）も堂々で行うことができました。



#08

まちのデザインを学ぼう

2024年3月3日（日）13:00～16:45 【会場】南市民センター

「まちのデザインを学ぼう」をテーマとした第8回ワークショップでは、まず「サイン（看板）デザイン」や「コミュニケーションデザイン」のレクチャーを受けました。その後、チームにわかれて自分たちの「看板」を作りました。レクチャーで習った内容を活かし、いずれも個性あふれる素敵な看板が作られました。

後半は、必要な道具や備品をリストアップしたり、当日のシミュレーションを行ったり、当日に向けての準備ができました。





当日の準備をすすめよう

2024年3月17日（日）13:00～16:45 【会場】南市民センター

直前に迫ったミニふくおかに向けて、もう少し準備を整える必要性が生まれたため、ワークショップが追加されました。最初の予定にはなかった回でしたが、多くの子どもたちが参加してくれ、よりよいものにしていこう！という意気込みが感じられました。また、当日市民（当日参加する子どもたち）に対して、ミニふくおかを安全に楽しんでもらうためのガイダンスの内容も決定しました。

各チーム、それぞれにやれるだけのことをやり切って、後は前日準備を待つばかりとなりました。



本番直前！前日準備

2024年3月25日（月）14:00～17:30 【会場】福岡市立南体育館

いよいよ前日！会場となる南体育館の中にはじめて足を踏み入れた子どもも実行委員たちからは、抱えきれないほどのドキドキやワクワクがあふれていました。明日、当日市民を迎えるにあたり、準備は万全か？当日の役割、スケジュールやシフトは大丈夫か？など、チームごとに確認しながらの最後の作業となりました。

時間ギリギリまで「もうちょっと！」と言いながら準備を続け、現場の質を高める姿に、子どもたちの成長を感じる時間でもありました。



サポーターの活動

サポーターは、主に高校生～大学生世代の若者たちで構成されるチームで、子ども実行委員や当日訪れる市民（小学生・中学生）の活動を支え、ミニふくおかのまちが円滑に動くようにサポートする役割です。今年度は、イベントである「ミニミニふくおか」の企画を自ら考え、運営する役割も担いました。

サポーターの活動スケジュール

10月15日	ミニふくおかへようこそ！ ～10年後のまちを考えよう～
10月22日	ミニミニふくおかの準備をしよう！①
11月5日	ミニミニふくおかの準備をしよう！②
11月18日	ミニミニふくおかの準備をしよう！③
11月25日	ミニミニふくおか前日準備
11月26日	ミニミニふくおか
12月3日	当日をイメージしてはじめよう
12月23日	テーマにあったまちづくり
1月7日	都市計画を完成させよう
1月28日	ミニふくおかのしくみづくり①
2月10日	ミニふくおかのしくみづくり②
3月3日	まちのデザインを学ぼう
3月17日	当日の準備をすすめよう
3月25日	前日準備
3月26日	ミニふくおか1日目
3月27日	ミニふくおか2日目・ふりかえり



活動の最後には、毎回、今日1日の活動がどうだったかを整理する「ふりかえりシート」を記入してもらいました。子ども実行委員のメンバーと接してみて、嬉しいこと、難しいこと、いろいろなことを実感した様子が見て取れます。そして回を重ねるごとに、着実に成長していくサポーターの姿を感じることができました。

ミニミニふくおか実施前のサポーターの気づき（ふりかえりシートより）

- 自分のグループの案だけではなく、他のグループの案も共有することで、そこから見つかる案や違う視点で考えることができるようになった。
- 活動していく中で緊張が解け、みんなで意見を出し合いながら進めることができた。
- したいことよりできること。特に、「誰でもみんなでできること」を探すがとても難しいと気づいた。
- 意見を出す時、固定概念にとらわれすぎて、少ししか案を出せなかった。
- 企画書を書く時にあまり完成時のイメージができなかった。
- 私は人見知りで、なかなか自分から行動を起こすことができなかった。でも、チームごとの話し合いでは、少し意見を言うことができた。
- アイデア出しの時は深く考えすぎないようにして、行き詰まったら相談することも大切！
- 様々な場面で、自分一人で行動するよりも協力しないとできないことの方が多くて、一緒に活動できたことがよかった。
- 頑張ろう！と思うことは、コミュニケーションです。子ども実行委員と話す上で、上から目線で話すことはせず、同じ働く仲間として接するようにする。
- 人によって、いろいろな見方や考えがあるんだなぁと思いました。特にクエストを作る時は、みんな十人十色のアイデアですごいなと思いました。
- いろいろな学校の人と協力することで、自分が知らないことを学ぶことができ、これまでよりも視野が広がった。
- 今回はミニミニふくおかの本番前であるため、より、自分のすべきことを意識して行動していきたい。

ミニミニふくおか実施後のサポーターの気づき（ふりかえりシートより）

- やる気の引き出し方、子どもへのリスペクトを大事にしたい。
- 小中学生の意見は思っていたよりも現実的で大人だった。意見を出す勢いがすごかった。
- 話し合いをするときに、距離がすごく大事だと思いました。座る位置によって話を聞ける人が違うので、次は違う人の隣に座ろうと思いました。
- 問題点を見つけた時に発言して解決までできた。
- 子どもたちの意見が詰まった時に、声をかけることができた。
- 発表は苦手だけど、書くのは得意な子もいるから、うまく魅力を引き出せると、みんなに満足してもらえると感じた。
- いかに当日の様子を想像できるかが大事だと思いました。実際に参加者目線で活動するとき、何がないと実行できないのかを考えられました。
- グループの中に少しやる気がない子がいたり、ペンが進まない子がいたりして、どう声かけをすればいいかが難しかった。
- 子どもの意見を尊重しながら、決められたことを全て終わらせることは難しいと感じた。
- 目的を明確にして伝えると、こちらが思っているよりもよく動いてくれる。
- 提案するときに、テーマにそって考えるとわかりやすそうだった。
- 意見がアバウトだったときに深く聞いたら、他の新しい意見が出てくることに気づいた。
- ミニミニふくおか本番まで残り回数も少なくなっているため一回一回を大切にしていきたいと思う。
- 子どもたちがもっと積極的に意見を出し合える雰囲気を作る。
- あまり難しく考えさせ過ぎないようにうまくサポートする。
- どこの担当になっても全力でサポートがんばります！
- みんなが意見を言いやすい雰囲気作り。素敵なテーマなのでテーマを活かした意見を考えることができたらいいなと思った。みんなの意見を肯定して『個性』を活かせるミニミニふくおかになったらいいと思う。

ミニミニふくおか

【日時】2023年11月26日（日）11:00-16:00 【会場】ちはや公園（ガーデンズ千早）

【参加者数】314名（一般242名、子ども実行委員48名、サポーター24名、その他保護者や地域の方など多くの方が一緒に体験）

【各コンテンツの参加者数】クエスト207名、スクール178名、ショップ166名

【平均滞在時間】1時間50分

【総ハピ数】2,049ハピ 【リボンの数】510本

【チケット発行数】478枚

ミニミニふくおか概要

ミニミニふくおかをたくさんの人に知ってもらい、楽しんでもらうために実施したイベントです。事前申込み不要の自由参加型で、東区の「ちはや公園」を会場として実施しました。会場内には、ショップ、スクール、クエストという2023年度のミニミニふくおかの中でも、大きな役割を持つコンテンツを設け、サポーターを中心に企画・運営を行いました。

ショップではどのようなお店にして何を提供するか、スクールでは楽しみながら学ぶことはどんなものか、クエストをスムーズに体験してもらうにはどうしたらいいだろうか？とそれぞれのチームで準備を行い、当日を迎えました。

ミニミニふくおかでは、スクールを体験することでここでの通貨となる「ミニ」がもらえ、クエストクリアやショップでお買い物をする幸せの単位「ハピ」がもらえる。そして5つのハピが集まると「お楽しみチケット」と交換できる仕組みを導入しました。また、みなさんのハピの数だけ会場内の木にリボンを結びつけて可視化しました。



How to enjoy "MINI" MINI FUKUOKA ミニミニふくおかの楽しみ方

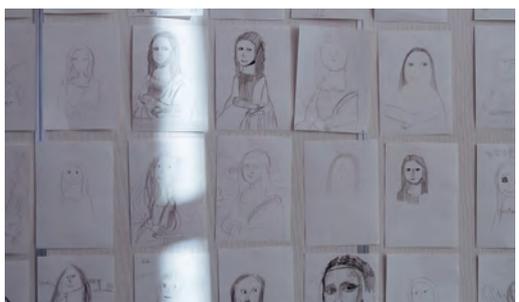
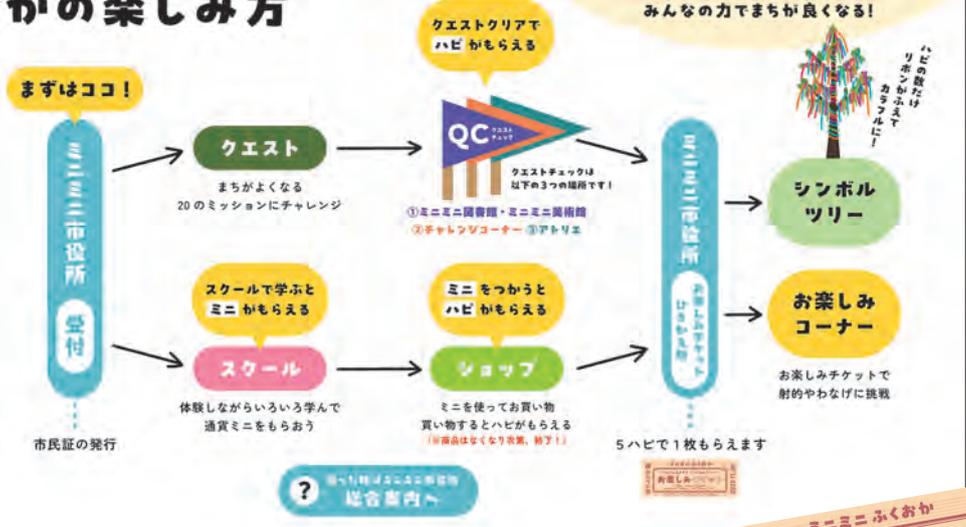
ミニミニふくおかは「5つのこと」でつくられています
 自治 福祉 創造 協働 継続
 みんなの力でまちが良くなる!

ミニミニふくおかは、みんなが幸せになる単位「ハビ」を集めるプログラムです。「ハビ」を集める方法は2つ。「クエスト」にチャレンジすることと、そして「ショップ」で買い物をする事です。

会場内に点在するクエストカードのお題に挑戦してQC(クエストチェック)で結果をチェックしてもらうと「ハビ」がもらえます。また、学びの場「スクー」に参加すると、「ミニ」 という通貨をもらえます。「ミニ」を使って、「ショップ」で買い物ができ、買い物をする、ここでも「ハビ」がもらえます。

ハビがたまったり、途中で得る時は、スクーにきてスタッフ市市民証を見せてください。集めてくれたハビに応じて、お楽しみチケットがもらえるので、お土産がもらえるゲームに挑戦してね。

また、みんなが集めたハビの合計数にあわせて、シンボルツリーにリボンが飾られます。たくさんのリボンで飾られるようにがんばってください。他にも、美術館や図書館の中でもいろんな体験ができます。ミニミニふくおかを、いっぱい楽しんでくださいね。



数字で見る「ミニふくおか2023」

【日時】 2024年3月26日(火)、27日(水) 11:00~16:00

【会場】 福岡市立南体育館 (福岡市南区塩原2-8-1)

【主催】 ミニふくおか実行委員会、福岡市

【後援】 福岡市教育委員会

【協賛・協力】 協賛企業 13社 協力企業 14社 (P36に掲載)

ミニふくおかの目的

子どもが自ら考え、主体的に活動する力や、コミュニケーション力を育み、これからの福岡市のまちづくりをクリエイティブに創造する人材を育成する。

ミニふくおかの基本理念

- ①「知る 考える 伝える 新しくつくる」ことを大切にしよう
- ②クリエイティブなこととの出会いを積極的に進め、創造力を高め、社会とのつながりを広げよう
- ③一人ひとりの役割と出番をつくり、子どもによる活動や運営をすすめよう
- ④自分の考えやアイデアを大切にすると共に、みんなのことを考えて決めることを大切にしよう
(2つのP [Personal & Public] を大切に)
- ⑤お互いを尊重しあい、みんなが安心して活動できるように一人ひとりが心がけよう
- ⑥ココロとカラダの2つの安全確保

当日市民申込者数 (小学3年生~中学生)

1,124名(2日間合計)

参加者数

922名

当日市民 **426名**(1日目)

当日市民 **429名**(2日目)

子ども実行委員 **67名**

サポーター

36名

ボランティア

160名(申込者数)

30名(当日従事者、最大定員人数)

当日のまちの動き

学ぶ (スクール)

	授業数	受講者数
1日目	25コマ	367人
2日目	25コマ	349人
合計	50コマ	716人

働く (ショップ/公共事業/メディア)

	1日目	2日目	合計
ショップ (17店舗)	444人	528人	972人
公共事業	438人	860人	1,298人
メディア	新聞:18人	ラジオ:30人	48人
合計			2,318人

他都市からの視察

4団体

広報展開

4年ぶりの大規模開催に向けて、子ども実行委員募集やサポーター募集、当日市民募集、ボランティア募集など、いずれも紙媒体の発行を行い、市内の学校や公共施設等に広く配布しました。

また、webサイトやSNSも適宜活用し、参加者募集やワークショップの様子などもタイムリーにアップしていきました。

4年ぶりの大規模開催で参加者が集まるか不安もありましたが、地道な広報が実を結び、いずれも定員を超える応募をいただくことができました。



子ども実行委員募集チラシ



サポーター募集チラシ

チラシ発行部数

- 子ども実行委員募集：64,000部
- サポーター募集：31,000部
- 当日市民募集：110,000部
- ボランティア募集：45,000部

公式webサイト閲覧者数 2023.4.1~2024.3.31

- 表示回数：38,315
- ユーザー数：9,366



当日市民募集チラシ



ボランティア募集チラシ

公式SNS閲覧者数 2023.4.1~2024.3.31

○Facebook

- インプレッション：7,918 (表示回数)
- リーチ：2,528 (ユーザー数)

○Instagram

- リーチ：6,098 (ユーザー数)



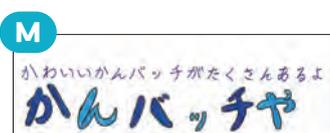
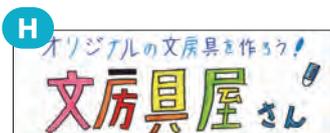
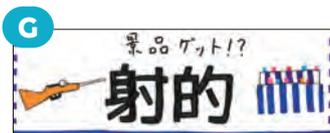
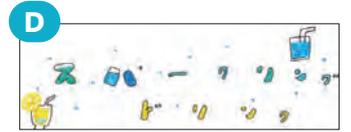
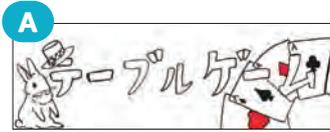
投稿イメージ

公式ウェブサイト



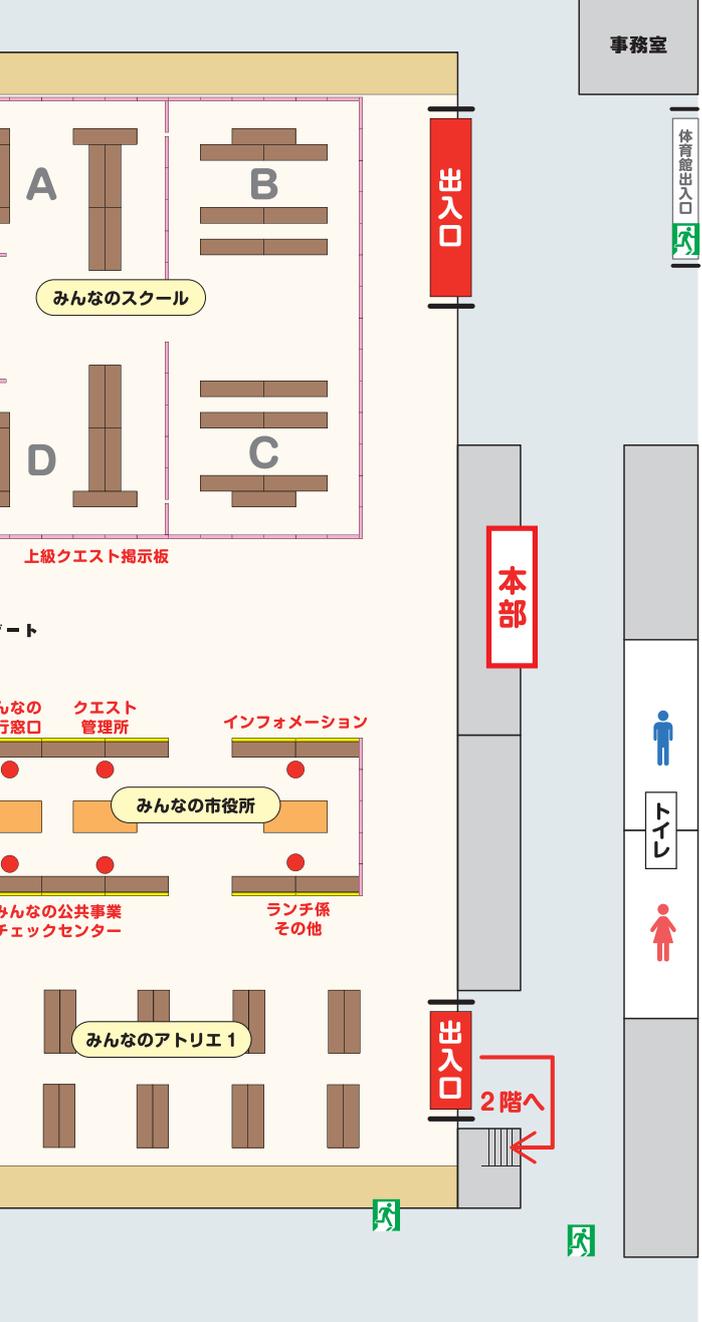
ミニふくおか2023 会場マップ

ショップ



非常口 受付

会場内には、さまざまなスペースがあります。個性あふれるショップ、受付や銀行などの機能をもつ市役所、クエストにチャレンジするための広場・アトリエ、新しい学びのスクール、新聞社・ラジオ局のメディアセンター、自慢の作品を飾るギャラリー、ワクワクの体験が待っているイベントセンターなど、魅力が盛りだくさんです。



みんなのスクール



みんなの市役所



みんなのイベントセンター



みんなのアトリエ



みんなのメディアセンター



ミニふくおか2023ギャラリー



△協力して大なわとびにチャレンジするクエスト



△ドキドキしながらミニふくおかのまちへ入場！



△ミニふくおかのロゴを考えてみるクエスト、色とりどりの作品が集まりました



△どこに何があるのかを確認できる、みんなの掲示板



△まちに入ったら、受付をしてガイダンスを受けます



△クエストのチャレンジ成果を確認してもらおうクエストセンター



△あやとりの技を学べるスクール



△ピンポン玉を落とさないように協力するお玉リレー



△クエストクリアで集まったハビは花に代わり、ツリーに飾られることで可視化されました



△みんなが座るカラフルなイスをつくる公共事業



△駄菓子屋のショップ、お会計を間違えないように真剣です



△ミニふく神社にかけられたみんなの絵馬



△みんなのミュージアムに飾られたちぎり絵の作品



△射的のショップ、ねらったのを落とせるか



△公共事業で作られたカラフルなイスでひと休み



△ミニふくおかのまちの良いところを伝えるポストカードをつくるクエスト



△スクールで学んだスライムづくり、よく伸びます



△ミニふくおかの1日をふりかえるアンケートも一生懸命書いてもらいました



△ラジオ出演の体験、ミニふくおかのまちで過ごしている感想などを語ってもらっています



△ひとつのぬり絵を完成させるなかで、初めて会った子ども同士にもコミュニケーションが生まれます



△銀行はいつも大忙し、みんなの働いた成果が対価に変わる嬉しい瞬間です



△ハピツリーのそばでみんなで風船を飛ばした明るいエンディング

クエストカード

クエストカードは、5つの色の「10の指標」に分類し、できる限りいろいろなことに挑戦できるよう準備しました。

最初のクエストカードは、受付時にもらえる市民証の中に入れており、チャレンジしたら5色の中で該当する色のクエストセンターにて、成果をチェックしてもらいます。無事にクリアしたら、次のクエストカードをもらえます。また、どうしても苦手な内容だった場合は、市役所のクエスト管理所にてカードを交換できるようにしました。

各種クエストカードのお題を以下に、全種類紹介します。このお題や内容は、子ども実行委員会で出たアイデアをもとにつくったものも多くあります。個々の挑戦が、まちを良くすることにつながるお題となっています。

自治 まちのしくみをつくる

- 1-1 ゴミの分別の種類を覚えよう
- 1-2 まちづくり川柳(5・7・5)を1句発表しよう
- 1-3 自転車の乗り方のマナーを学ぼう
- 1-4 クエストをクリアした人に言うセリフを考えよう
- 1-5 ゴミをポイ捨てする人を注意しよう
- 1-6 交通ひょうしきを覚えよう
- 1-7 まちのシンボルマークを考えよう
- 1-8 SDGsについて覚えよう
- 1-9 まちを歩いて通りの名前を考えよう
- 1-10 あなたが家族と約束しているルールを教えよう
- 1-11 シンボルツリーのハピの数を数えよう
- 1-12 子どもの権利条約を読んで感想を伝えよう
- 1-13 このまちから見える非常口の場所を確認しよう
- 1-14 ミニふくおかのルールを覚えよう
- 1-15 このまちの市民を調べよう

自治 みんなと仲良くなる

- 2-1 元気に自己紹介をしよう
- 2-2 学年が違う人と同じところを見つけよう
- 2-3 外国語のあいさつを3つ覚えて使おう
- 2-4 2人3きゃくで商店街を1周しよう
- 2-5 あやとりでホウキを作ろう
- 2-6 あいさつ&ハイタッチで仲良くなろう
- 2-7 名前の入ったメダルでアピールしよう
- 2-8 誕生日の星座が同じ人を見つけよう
- 2-9 友だちとミニふくおかの思い出を残そう
- 2-10 友だちに自分のハートを渡そう
- 2-11 誰かの「得意」をみんなに伝えよう



- 2-12 「しんげんちゲーム」で仲良くなろう
- 2-13 じゃんけんマスターになろう
- 2-14 ナイスな名刺を作って自己紹介しよう
- 2-15 お互いの似顔絵を描こう

福祉 やさしいまちをつくる

- 3-1 手話で「こんにちは」
- 3-2 みんなで楽しめるスポーツを考えよう
- 3-3 みんなの休憩所をキレイにしよう
- 3-4 休憩所のピクトグラムを考えよう
- 3-5 点字ブロックが必要な場所を考えよう
- 3-6 声を出さない遊びを考えよう
- 3-7 犯罪のない安全なまちの約束を考えよう
- 3-8 ヘルメットをかぶってみよう
- 3-9 みんなが使いやすい公園を絵にしてみよう
- 3-10 色んな国の言葉で「ありがとう」
- 3-11 人にされるとうれしいことを書いてみよう
- 3-12 友だちと一緒に車いすの体験をしよう
- 3-13 栄養バランスの良いこんだてをつくろう
- 3-14 「ミニふくおか」を点字で書こう
- 3-15 マタニティ体験をしよう

福祉 まちのこまட்டを探す

- 4-1 食べ物の好ききらいをなくすアイデアを考えよう
- 4-2 フードロスへらすアイデアを考えよう
- 4-3 きき手が使えない状態を体験しよう
- 4-4 ベビーカーを押して商店街を1周しよう
- 4-5 まつばづえで商店街を歩いてみよう
- 4-6 まちの中の不便なところをさがそう
- 4-7 落とし物をなくすアイデアを考えよう
- 4-8 耳せんをしてコミュニケーションをとろう
- 4-9 目かくしをして歩いてみよう
- 4-10 おじいさん・おばあさんの気持ちになろう
- 4-11 まちの中にひそむ危険がないか探そう
- 4-12 車いすで通りにくいところを探そう
- 4-13 言葉を使わずに買い物してみよう
- 4-14 自分ができるサポートを宣言しよう
- 4-15 ハンドサインを覚えてやってみよう

創造 新しいことにチャレンジする

- 5-1 まちにあったらうれしい施設を考えよう
- 5-2 新聞でマイバックをつくろう
- 5-3 ミニふくおかのお祭りを考えよう
- 5-4 自分だけのカッコいいサインをつくろう
- 5-5 ミニふくおかのみりよくを英語で伝えよう
- 5-6 理想のスマホアプリを発明しよう
- 5-7 まちの中にいるキャラクターをさがそう
- 5-8 ミニふくおかの新名物を考えよう
- 5-9 新しいミニのデザインを考えよう
- 5-10 自分の特技を見てもらおう
- 5-11 福岡の方言でカルタをつくろう
- 5-12 ミニふくおかのテーマカラーをつくろう
- 5-13 けん玉にチャレンジしよう
- 5-14 動物の鳴き声をマネしてみよう
- 5-15 ミニふくおかのペットを風船でつくろう

創造 まちに感動をつくる

- 6-1 風船でゲートをかざろう
- 6-2 SNS ばえする写真をとろう
- 6-3 まちの感動スポットをマップに記録しよう
- 6-4 理想のアトラクションを描いてみよう
- 6-5 クスッと笑えるユニークな絵を描こう
- 6-6 ハンドベルでワンフレーズ演奏
- 6-7 オリジナルの楽器を作ろう
- 6-8 笑いでまちを明るくしよう
- 6-9 みんなの図書館をかざろう
- 6-10 歌ってまちを盛り上げよう
- 6-11 ミニふくおかでの喜びを集めよう
- 6-12 感謝の気持ちを動画にとろう
- 6-13 ミニふくおかダンスを考えよう
- 6-14 10年後の自分へ絵手紙を書こう
- 6-15 新しい公園の遊具を考えてみよう

協働 チームでとりくむ

- 7-1 お玉リレーを成功させよう
- 7-2 元気よくラジオ体操をしよう
- 7-3 まちがいさがしにチャレンジしよう
- 7-4 イラストしりとりを連続6回成功させよう
- 7-5 グループでジャンプ写真をとろう
- 7-6 大なわとび10回チャレンジ
- 7-7 ヒーローのポーズをキメよう
- 7-8 相手のポーズを3回マネしよう
- 7-9 風船バレーで10回ラリーしよう
- 7-10 フラフープリレーにチャレンジしよう
- 7-11 空き缶タワー8段づみをクリアしよう
- 7-12 仲間と1/100まで秒数をそろえよう
- 7-13 4人で力を合わせてクイズに答えよう

- 7-14 しりもじにトライ
- 7-15 5人組で「☆」を作ろう

協働 誰かのためにはたらく

- 8-1 ミニふくおかを未来につなげよう
- 8-2 まちの良いところを伝えるポストカードを作ろう
- 8-3 寄付をおねがいしよう
- 8-4 人権に関する標語を書こう
- 8-5 ありがとうカードを5枚つくって配ろう
- 8-6 ごめんねカードを5枚つくって配ろう
- 8-7 スクールでレッスンを受けた感想を伝えよう
- 8-8 みんなの図書館のロゴマークを作ろう
- 8-9 みんなの美術館のロゴマークを作ろう
- 8-10 AEDの使い方をおぼえよう

継続 環境について考える

- 9-1 自然環境を守るための活動を考えよう
- 9-2 お家でできる環境活動を考えよう
- 9-3 水をきれいにしてみよう
- 9-4 手回しで発電しよう
- 9-5 海の生き物を助けよう
- 9-6 山林を守ろう
- 9-7 ぜつめつ危惧種の生き物のイラストを描こう
- 9-8 福岡市で見られる生き物について調べよう
- 9-9 環境ラベルを調べよう
- 9-10 SDGs ポスターを作ろう
- 9-11 「海洋プラスチック」について調べよう
- 9-12 環境クイズに挑戦しよう
- 9-13 YouTubeの環境動画を見よう
- 9-14 自分なりの環境宣言をしよう
- 9-15 アトリエで作品を作ろう

継続 歴史について学ぶ

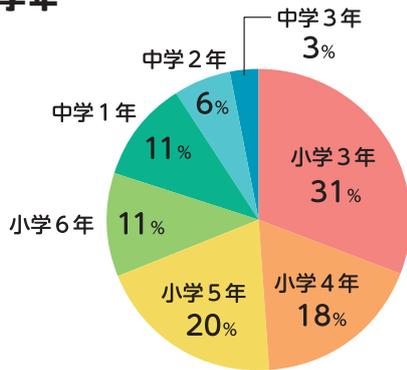
- 10-1 ミニふくおかについて調べよう
- 10-2 ミニふくおかのロゴを描こう
- 10-3 ミニふくおかのYouTubeチャンネルを見よう
- 10-4 子どもの権利条約について調べよう
- 10-5 福岡市について調べよう
- 10-6 福岡市の食文化について調べよう
- 10-7 福岡市の工芸品について調べよう
- 10-8 福岡市の文化財について調べよう
- 10-9 福岡市の方言について調べよう
- 10-10 福岡市のお祭りについて調べよう
- 10-11 福岡市の歴史について調べよう
- 10-12 福岡の民話（昔話）をよんで感想をかこう
- 10-13 金印の封泥体験をしよう
- 10-14 博多手一本を覚えよう
- 10-15 博多にわか面を作ろう

当日市民アンケート

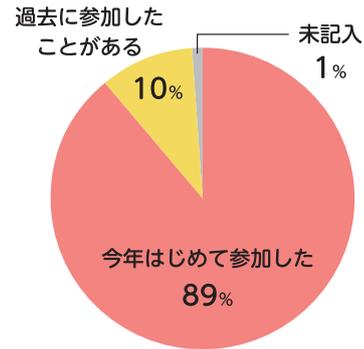
当日市民アンケート1日目 (3/26) (一部抜粋) 回収数：375件

□満足度(100点中何点ですか?) **93.0点**

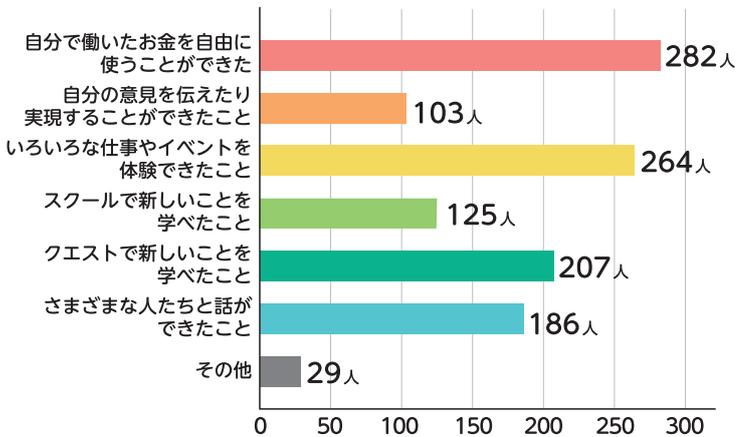
□学年



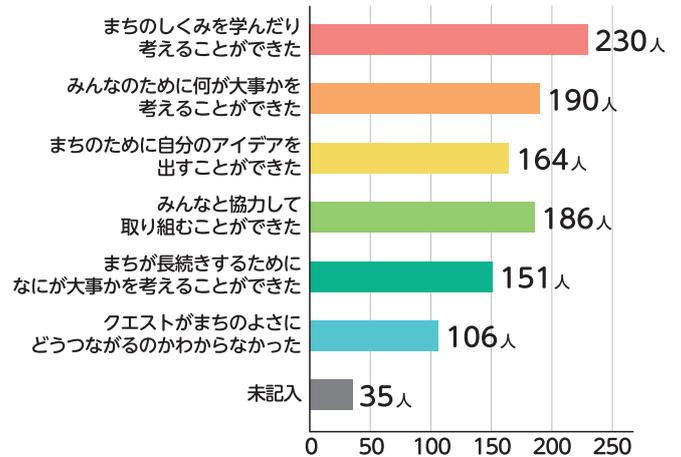
□参加経験



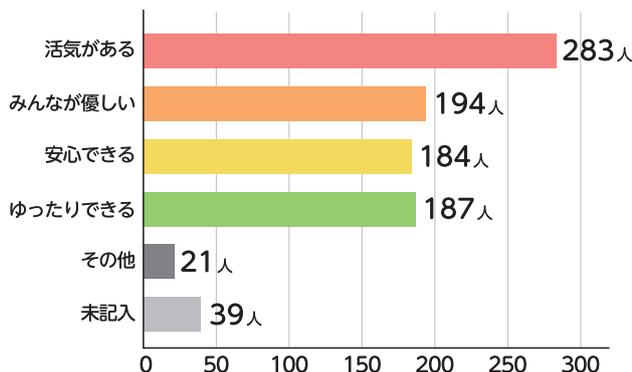
□ミニふくおかに参加してよかったことはなんですか?(複数回答可)



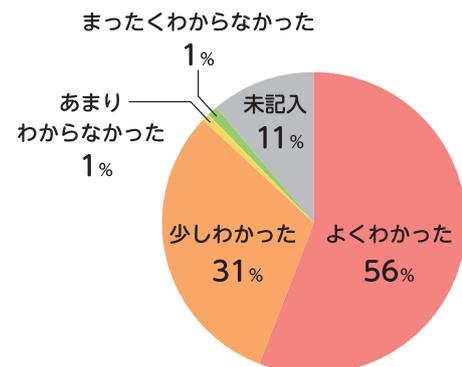
□クエストにチャレンジしてどうでしたか?(複数回答可)



□ミニふくおかは、どんなまちでしたか?(複数回答可)



□ミニふくおかに参加して「まちのしくみや仕事のしくみ」がわかりましたか?

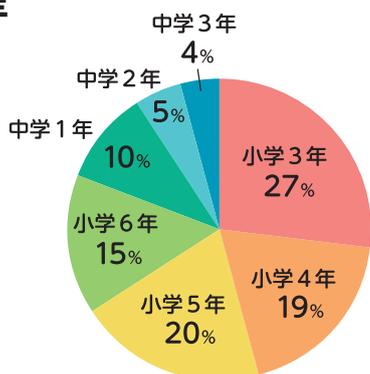


当日市民アンケート2日目 (3/27) (一部抜粋) 回収数：361件

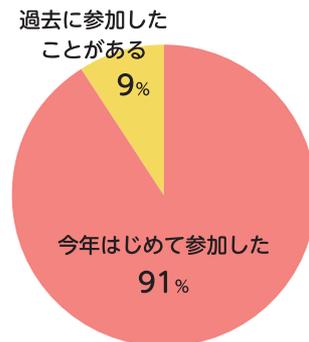
□満足度(100点中何点ですか?) **96.2点**

1日目から+3.2点!
まちも成長しました

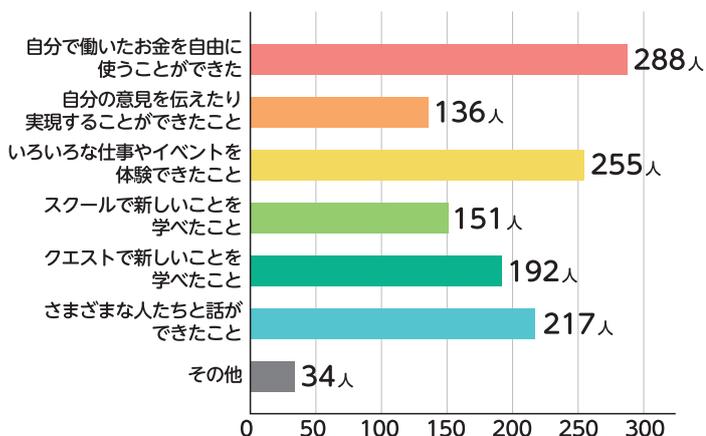
□学年



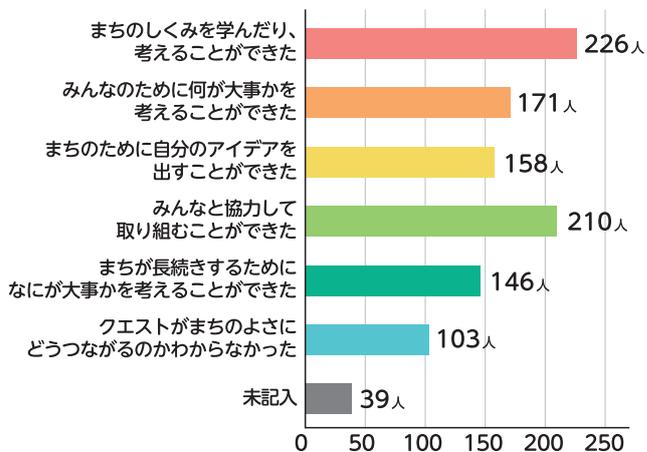
□参加経験



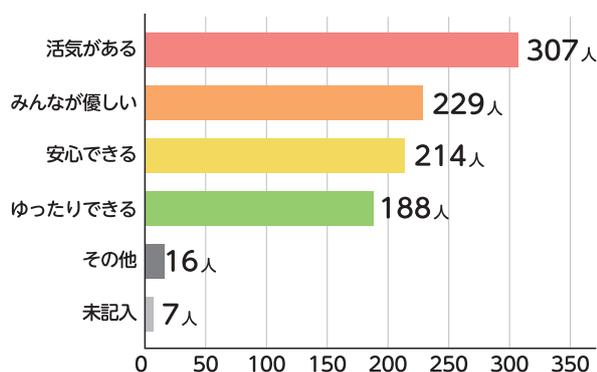
□ミニふくおかに参加してよかったことはなんですか?(複数回答可)



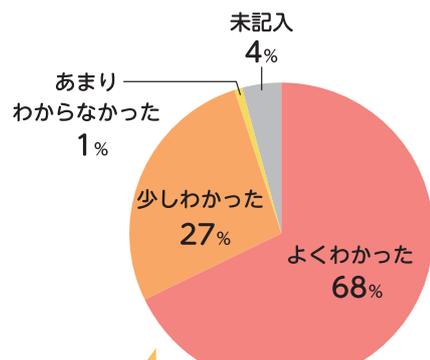
□クエストにチャレンジしてどうでしたか?(複数回答可)



□ミニふくおかは、どんなまちでしたか?(複数回答可)



□ミニふくおかに参加して「まちのしくみや仕事のしくみ」がわかりましたか?

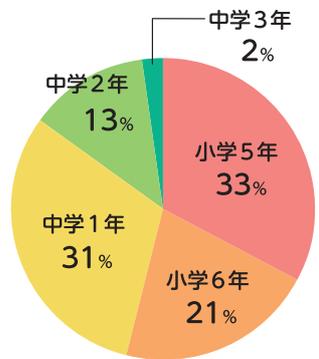


子ども実行委員会やサポーターが1日目よりまちの仕組みをうまく伝えられた成果が見てとれます

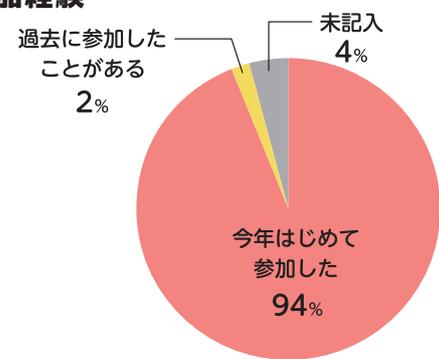
子ども実行委員会アンケート

最終日アンケート (3/27) より 回収数：52件

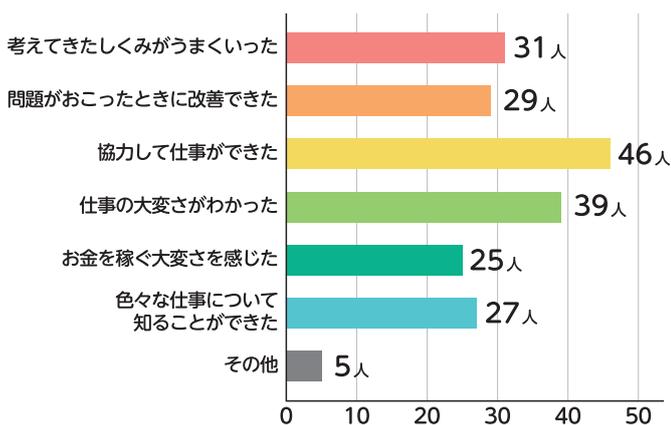
□ 学年



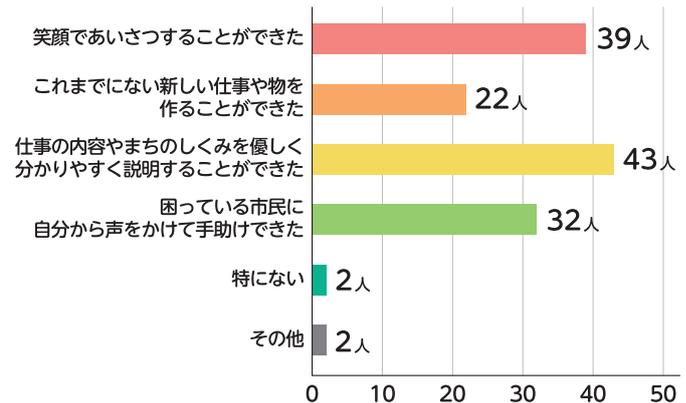
□ 参加経験



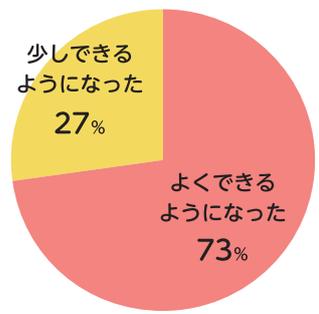
□ 当日に仕事をして、どんなことを感じましたか?(複数回答可)



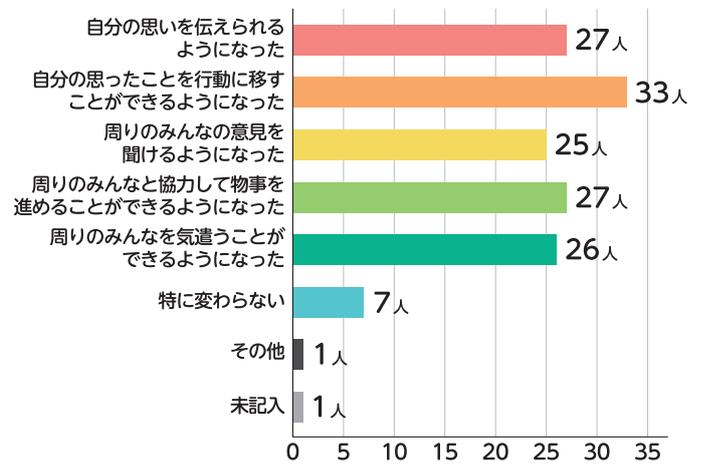
□ 「参加する誰もが安心して楽しめるまち」を目指してまちづくりを進めているが、当日の行動で当てはまるものは?(複数回答可)



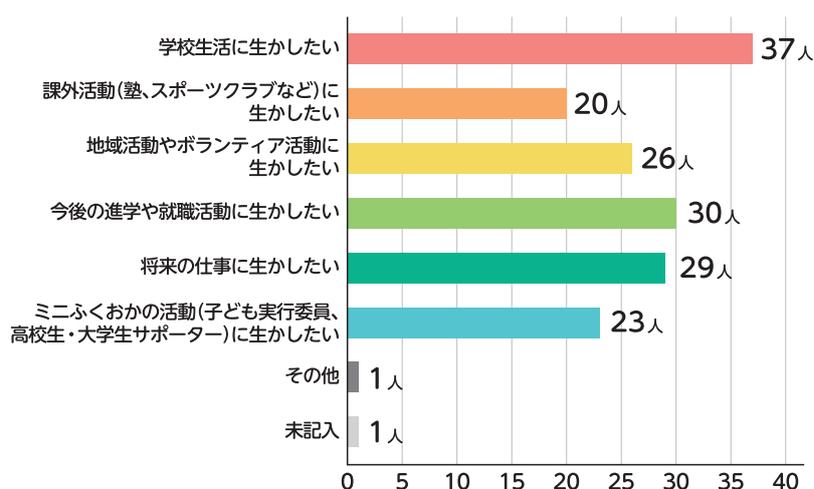
□ 子ども実行委員会のこれまでの活動の中で、自分の考えを積極的に伝え、主体的に行動することができるようになりましたか?



□ これまでの約5ヶ月間の活動を経て、普段の生活の中でもできるようになったことがありますか?(複数回答可)



□ 子ども実行委員会での経験を今後どのように生かしたいですか？(複数回答可)



ミニふくおかで楽しかったこと嬉しかったことはなんですか？(ふりかえりシートより)

- 自分の役割をしっかりとできたこと。
- 多くのお客さんをさばげたこと。人との関わりができたこと。
- 実行委員も自由に遊べる時間があつたこと、パレードで人が集まつたこと。
- ラジオをしているときに、周りの人が耳を傾けてくれたり、笑顔になつたりして嬉しかったです。
- 楽しかったことは、自分で考えてお金を使うこと。うれしかったことは、お店に人がたくさん来てくれたこと。
- 受付で「ありがとう」と言われたこと。
- 複数人でやるクエストで声をかけてもらったときが、嬉しかったです。
- 意見を言えたこと。手を振つたら笑顔でふり返してくれたこと。友だちがたくさんできたこと。
- スクールで何かを市民が「できた！」と言ってくれたのが嬉しかった。
- イベントの内容で当日市民が笑ってくれたこと。
- クエストセンターで受付をしているときに、来た人と少しおしゃべりすることが楽しかったです。
- 絵馬のために行列ができたこと。
- パレードが大成功したし、みんなを笑顔で見送ることができたこと。
- 消しピンバトルやそういう遊びが楽しかったしよかった。
- 子ども実行委員、サポーターの友だちがたくさん増えたこと。
- ショップで買つたり、人と話せたりしたこと。
- 友達も来てくれて、とても楽しんでたこと。
- 楽しかったことは、買い物とクッキー作りです。嬉しかったことは、お店の売り上げが、初日の2倍になったことです。
- 市民の人たちに「楽しかった」と言われたとき。
- オニオンスープがおいしかったこと。友だちが増えた。
- 自分たちの作った仕組みを当日市民が楽しんでくれた。
- ミニがたくさんもらえたこと。みんなの喜ぶ顔が見れた。
- たくさんの人に物を売り接客できたこと。
- ミニを使って、ショップでいろんなものを買つたこと。
- 「スクール」のメンバーやサポーターとの話。
- 楽しかったことは商売すること。うれしかったことはお店で作っためんたいパンが売れたこと。



ミニふくおかで大変だったことはなんですか？（ふりかえりシートより）

- 自分たちで計画を立てること。
- クエストセンターに来た人を不快にさせない、かつ早くさばくことが大変でした。
- 最後、お金がたくさん余ってあせったこと。
- リーダーとしてメンバーをまとめること。
- クエストセンターでの仕事。
- なし。みんなができてすぎている。
- 計画を練って、話し合うことです。
- みんなをまとめること。お金（ミニ）の使い方。
- ミニふくおかのラジオは人前でやるから、恥ずかしかったことです。
- 自分の仕事の作業。
- 働く人たちに説明をするのが難しかった。
- 接客と働きに来る人の対応の両立。
- クエストセンターに人がめっちゃ並んでいるとき。
- お客さんを呼ぶのが恥ずかしい人が多くて、お客さんを呼ぶことと、オープンと一緒にしないといけなかった。
- 準備やその人たちに合った授業の仕方をする。
- お店の人がたくさん来て、接客するのが大変だった。
- クエストカード管理所では、チャレンジしてもらえようように説明すること。クエストセンターではダメだったときの説明する人が足りなかったこと。
- みんな思っていることが違った。指示が通りづらかった。
- 思い通りに行かなかったとき。
- あやとりの技を教えること。
- 3:40~3:50くらいまでは、ラストスパートの時間で、お客さんがたくさん来すぎて、手が回らなくなってしまったので、サポーターの人と協力して頑張りましたが、大変でした。
- クエストのシートがなくなってしまったときに、自分たちで作りながら来る人の対応をするのが大変でした。
- オニオンスープでやけどしないように冷めすぎないように調整すること。
- 並んでいる人が多いときに、一人ひとりのクエストの手助けもしないといけなくなったときの仕事。
- 準備すること、物の数を考えること。
- 仕事を教えること。最後のとき、たくさんお客が来て、3人で対応したこと。
- クエストをやりたくないと言っている人たちにアドバイスをすること。
- いろんな人が来たので、対応が大変だった。
- 人手が足りなくなることがあった。
- 行列ができたときの接客。
- 最後のとき、お客さんが「〇〇ありますか」と言って、なかなか閉店できなかったこと。
- アルバイトに教えることと、接客がかぶったときが大変だった。
- たくさん人が来てたので、換金が大変だった。
- スクールの授業。
- たくさんお客さんが来て、商品を出すことが大変だった。

わたしたちの福岡市のまちを将来どんなまちにしたいですか？（ふりかえりシートより）

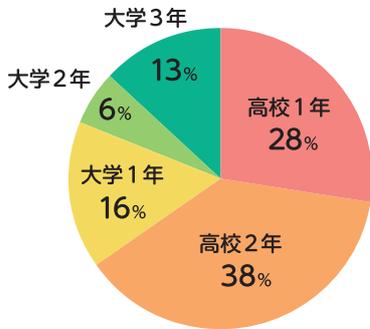
- 笑顔であふれかえるまち。
- まちにごみが落ちていないまち（清潔）。
- ミニふくおかみたいな楽しいまちにしたいです。ただ税金はもう少し安くしたいです。
- 初対面の人だとしても協力していけるまち。
- 緑も経済も豊かなまち。
- 「みんなが住みたい」「ずっとここにいたい」と思えるまちにしたい。
- だれでも住みやすく、活発なまち。
- 誰もが楽しく暮らせるまち。
- 自分らしく楽しく過ごせるまち。
- きれいで未来的なまち。
- 笑顔あふれる多様性の認められる世の中。
- 明るくてやさしいまち。
- 差別が無いまちにしたい。
- 楽しくてみんなが仲がいいまち。
- 子どもたちのワクワクあふれるまち！
- 個性であふれているまち、自分の個性を出せるまち。
- たくさんの人が楽しく幸せな気持ちになれるようなまち。
- ミニふくおかみたいにもっと活気のあるまち。
- 明るく安心安全なまち。
- 子どももまちのことを理解して、貢献できる福岡。
- どんなお店でもたくさんお客さんが入ってくれるまち。
- まちにある案内板やお店の看板がわかりやすく、どこに何があるかがよくわかって安心なまち。
- 子育てしやすいまち。
- みんなが住みやすい便利で楽しいまち。
- みんなが楽しく、安全に過ごすことができるまち。
- 笑顔があふれ、一人ひとりが輝いているまち。
- 住んでいる人みんなが笑顔でいられる楽しいまち。
- 過ごしやすく、遊ぶ場所が多い活気のあるまち。
- 活気があるまち。やさしさにあふれているまち。
- 楽しく、スローガンのように「個性あふれるわくわくタウン～まちに彩りを～」のようなまちにしたい。
- もっと自然豊かなまちにしたい。
- 常に時代に適したまち（常に新しいまち）。
- 自然豊かでみんなにやさしいまち。
- 明るく、活気があって、みんながやさしいまち。
- みんなが快適に歩ける道が多いまち。
- 友好的なまちにする。
- だれもが楽しい！とあって、全員がやさしいまち。



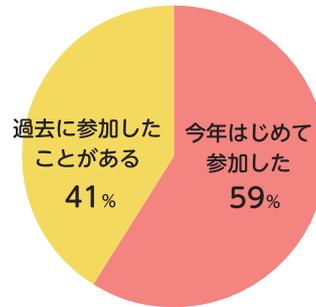
サポーターアンケート

最終日アンケート (3/27) より 回収数：32件

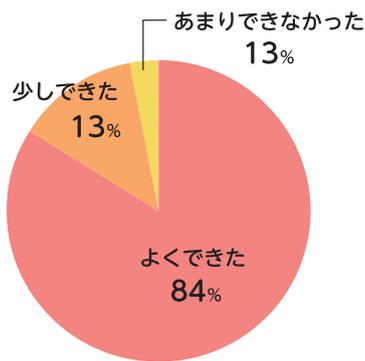
□ 学年



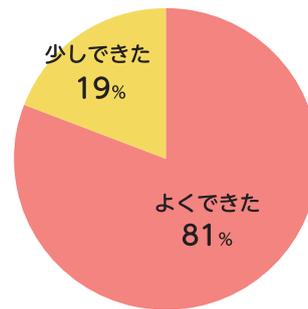
□ 参加経験



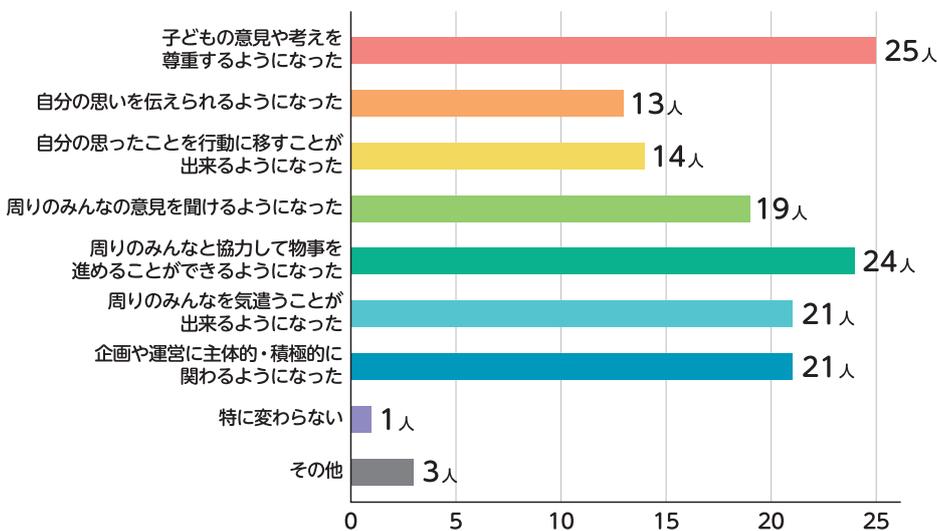
□ 子どもたちのサポートについて



□ サポーターの活動を通して学んだり、経験したことを当日に活かしましたか？



□ これまでの活動を経てできるようになったことはありますか？(複数回答可)



ミニふくおかで楽しかったこと嬉しかったことはなんですか？（ふりかえりシートより）

- 市民や子ども実行委員など年齢の違う人と話すことができたこと。多くの人とコミュニケーションをとれたこと。
- 自分の仕事を責任もってやり遂げられたこと。たくさんの「ありがとう」を笑顔でもらえたこと。
- いろいろな人と協力して一つの事をするのは、難しかったけど最後は1つのチームとして楽しめて嬉しかった。
- 小さなことでもありがとうと言われると頑張ろうと思えた。違う学校・学年の人と仲良くなれた。サイコーな人しかいないくてのびのび活動できた。みんながたくさんクエストを挑戦してくれたこと。
- 毎回のワークショップを通して自分が成長できたことや、子どもたちの成長を感じることができたこと。
- 普段関わることのない世代と話して、時代などの違いを感じることができた。
- 子どもたちが積極的に働きたい！という姿勢を見せ、常に笑顔がみられたこと。また、思いやりがあったこと。
- 最初は喋らなかつた子が、最後はいきいきと物を買っていて成長を感じた。1日で人が変わる体験は貴重だと思いました。
- クエストを達成したり、チャレンジしている子どもたちが楽しそうにしていたこと。
- 子どもたちがとっても楽しそうにクエストに取り組んでくれたこと。
- 2日間ともきた子で、「クエストやるために今日は来た」と言ってくれた市民の子どもがいた。「このあとしたいことは何？」という質問に対して「友達づくり」と答えてくれたこと。
- 子どもたちに「今日楽しい？ミニで何買った？」など少し声をかけてみると「超楽しい！きて良かった！」と言ってくれたり、止まらないくらい楽しそうに話をしてくれたことがうれしかった！
- きてくれた方が「楽しい」「面白い」「すごい！」などの言葉を言っていたのを聞いたこと。また、担当として椅子のデザインをたくさん見た中で、子どもの発想力の高さに驚くとともに、個性豊かなデザインを見るのが楽しかったです。
- パレードをしている時にみんなが笑顔だったこと。子ども実行委員が楽しそうだった。
- みんなで協力して何かをなすことの大変さと充実感をしれたこと。
- みんなの笑顔を見ることができたこと。お店に来てくれた人、前を通った人とコミュニケーションを取れたこと。
- 授業を受けに来た子どもたちがみんな楽しそうにしていた。クエストで困っていた子どもがいた時に助けてあげるとお礼を言ってくれたことが良かった。
- 子どもとたくさん話せたこと。子どもの笑顔を見れたこと。みんなが笑顔で終わり、自分も笑顔で終わったこと。
- 自分が考えたアイデアを当日市民の子が楽しそうにやっているのを見て嬉しかった。
- 当日市民が楽しそうにミニふくおかを過ごし、子ども実行委員がまた来年もやりたいと言っていたこと。

活動の経験を通して、自分の将来について考えた事を教えてください。（ふりかえりシートより）

- いろんな子どもたちがいて面白かった。やっぱり子どもと関わる仕事に就きたい。
- いろいろな人と関わるのが楽しかったので、将来、いろいろな人と関わり支えられるような人になりたいと思った。
- 何かを作るときは1人でこなすより圧倒的に複数で行うべきだと考えた。同じ作業を続ける仕事は自分には合わないと思っていたけど意外と好きだったから楽しめると思った。
- やっぱり人とコミュニケーションがたくさん取れる仕事に就きたい！
- 教育に関わる仕事につきたいと思っているため、ファシリテーターの力がついてよかったなと思います。
- みんなで力を合わせるイベントは大変だけど、その分やりがいがあると感じました。なので、イベントに将来関わるのがあってもいいなと思いました。
- 子どもの意見を積極的に聞き入れ、社会をより良く出来るような職に就きたい。
- 私は食品関係の仕事に興味があり、ショップの活動をさせてもらって、子どもの好きなものや見栄えの問題など、勉強になることがありました。貴重な経験ありがとうございました。
- 今大学で福祉を学んでいて、ミニふくおかに参加して、より地域と子どもについての興味が湧いた。ミニふくおかでの経験を活かして、大学の学びを深めたいと思う。
- やっぱり子どもと関わるのはとても楽しい！私は将来海外で働くか保育士になるか迷っていたけれど、保育士または英語教員になりたい！と決めました。
- このミニふくおかを通じて夢ができました。
- 何かしらの形を持って自分が生まれ育ったまちである福岡に恩返しをしたいという気持ちがより強くなった。

ボランティアアンケート

2023年度の大規模開催においては、イベント当日の運営をサポートいただき、高校生以上のボランティアも募集しました。30名の募集枠に対し、160名からの応募をいただきました。多くの方々の応援の気持ちをいただき、ミニふくおかへの期待の大きさを感じました。以下は、ボランティアとして参加いただいた方々に書いていただいた、ふりかえりシートからのご意見です。

ミニふくおかでのボランティア体験で、印象深かったことはなんですか？

- 1日目と2日目でガラリと雰囲気が変わった。本当に作りながらの過程も楽しめるイベントだった。
- 2日目のパレードが大成功したこと。2日目に1日目の反省を反映できたこと。
- しっかりとした「子どもたちのまち」ができていて本当にすごいなと感動しました。
- 子どもが主体となって行事を進めていくことで、達成感や将来への希望を持つことができる点。
- 子どもたちが一生懸命働いていたこと。
- たくさん子どもたちと一緒に作業をして、交流できたこと。仲良くなれた子もいて嬉しかったです。
- 本物のまちのように運営されているミニふくおかを見て、来年も何らかの形で関わることができたら良いなと感じ、この経験を活かしていけたらなと思います。
- 子どもたちが楽しそうだった。
- 小学生は面倒くさい事も真剣にやっている。
- みんなで協力してハピツリーを完成させたこと。
- 平等の扱いが大変だった（実質的、形式的）。
- 昨日は、公共事業のカウンターとハピツリーにしかいなかったけれど、今日まちに出てハピで買い物をしてみて、本格的なまちが出来上がっていると分かって、感動した。また見え方が違った。
- とても活気があってたくさんの活動がされていたのがとても印象深かった。
- 前日の反省点を生かし、イベントが円滑に進められるようになっている点がよかったと思うと同時に、印象深かったです。来てくれた子どもたちの笑顔も印象的でした。
- ベンチ作りで、子どもたちが組み立てに苦戦する中、最後までやり遂げることができた時の達成感あふれる笑顔。
- 仕事が多く大変だったけど、その分楽しかったのがよかったです。
- 他校の友達もできたとし、無料でいろいろなものが用意されてびっくりした。
- 子どもたちのたくさんの笑顔が見れたこと。一人ひとりが主体となって様々な取り組みを行えたこと。



ミニふくおかに参加して、学びや成長につながったと感じるところがあれば、教えてください。

- 歳の差関係なく皆で助け合えたこと。
- まちの仕組みを改めて知る機会になった。
- 子どもたちが困難に立ち向かっていく姿が見られたところ。自分自身も成長できたと思う。
- 壁にぶち当たったときに他の人と協力すると解決する。
- 人と関わる楽しさ、仕事をする難しさを学んだ。周りを見ることの大切さを学んだ。
- 様々な意見を聞いたり、普段関わらないような人々と関わることができてたくさん刺激をもらうことができた。小さな子たちとの接し方を学ぶことができた。
- 自主的に手伝ったり、周りを見て行動することや、自分も精一杯楽しむことが大切だなと思いました。
- 周りを見て臨機応変に対応する事を学びました。
- 知らない人との協力でコミュニケーション能力が上がった気がします。
- 対人関係能力の向上を感じた。
- たくさんの人と繋がることができた。
- 働きに来た子をどのように分けるかで効率が変わることに気づけた。
- 折り紙などは自分も考えながら手伝うことができ、頭を使った。
- 子どもとの触れ合い方、協力の仕方を学んだ。
- 先を見越して量を調整すること。
- 場合に応じて対応することができた。
- 歳の差関係なく協力できた。
- このくらいの年齢の子に苦手意識がありましたが、子どもと触れ合うことで、それがなくなり良い経験になりました。
- 初対面の人にも話しかけられるようになった。

その他

- 初めて参加をしたのですが、来年も参加したいです。とても楽しかったです。
- ボランティアという立場ですが、まちづくりに協力できて楽しかったです。
- とても学ぶことが多かったです。
- スタッフさんもとても親切で質問しやすかったです！ありがとうございました。
- 今回初めてボランティアに参加しました。友達もおらず、最初は1人でしたが、仲良くなることができ、楽しく活動できました。また参加したいと思います。
- 勢いで応募したけど、後悔ないです！楽しかったです。
- とても大変ではありましたが、子どもたちがとても楽しそうにしている私も嬉しい気持ちになりました。
- 人生で最初のボランティアで不安でしたが、みなさんが優しくサポートしてくれたおかげで無事にやり遂げることができました。本当にありがとうございました。
- 楽しい2日間でした。来年も何らかの形で参加したいと思います。ありがとうございました。
- とても楽しい2日間でした。参加できて本当によかったです。ありがとうございました。
- 今回2日間参加して、このような大きなイベントの運営の仕方などを間近で知ることができたのでこれからの生活に活かしていきたい。
- 2日間、大変で地味な仕事が多かったのですが、良いミニふくおかに繋がっている事を実感し、達成感が大きかったです。ありがとうございました。



子どものまちリーダーの視点

さいたまゆ

子どもに新たな体験や学びの機会を提供し、 未来を豊かにしたい

私は、2012年のミニふくおかに初めて参加して以来、当日市民、子ども実行委員、サポーターの立場をすべて経験してきました。大学生からはスタッフとして活動させていただいており、今回子どものまちリーダーとして、子ども実行委員やサポーターのみんなと一緒にミニふくおかのまちを作り上げてきました。ミニふくおかは子どものつくるまちである以上、子どもの主体性やアイデアを最大限尊重した事業であってほしいです。ミニふくおかの土台は子ども実行委員会と考えられて、当日のまちは当日市民、子ども実行委員、サポーター、ボランティアスタッフ等、多くの人の協力によって作られていくもので、年によって変化するものだと思っています。だからこそ、子ども実行委員には、たくさんのことを自分たち自身で考えて決めてほしいと思っています。そして、その考えたものは自分たちの力で実行してほしいです。

今回のミニふくおかでは、通常の子ども実行委員会終了後に、中学生会議を定期的に行いました。ミニふくおか当日は自分たち自身でまちを運営していかなければなりません。中学生には、子ども実行委員会をまとめるリーダーとして活動してもらいたいと思っており、回を重ねるごとに中学生リーダーとしての責任感が目に見えるほどになり、とても心強い存在となっていました。

子ども自身が責任を持って行動し、失敗を乗り越えることが成功体験につながります。もちろん、子どもの中には自分の思いを表現するのが苦手な子もたくさんいます。そのときは私が自分から話しかけることで、子どもの意見や思いを引き出してきました。このアクティブな傾聴力は、私がこれまでのミニふくおかでの活動を通して培った財産で

もあります。

ミニふくおかに、他の子どものまちにはあまりないサポーター制度があります。10年以上続いてきたミニふくおかに、数えきれないほどの参加経験者が存在します。そんなみんながサポーターとして子どもにより近い立場で活動し、活躍できる場を提供することが、運営する上での使命であると感じています。今回のミニふくおかでは、まちの中のエリアごとに、サポーターにリーダーとして活動のファシリテートを担ってもらいました。子どもと大人を繋ぐ中間の立場であるサポーターの存在は、ミニふくおかに必要不可欠なものとなりました。

現在私は子どものまちリーダーとして、現場の運営に深く携わっていますが、この立場を、これまでの子ども実行委員やサポーター経験者の若者たちにもっと担ってほしいと思っています。そんな若者たちをミニふくおかで育てていきたいです。ミニふくおかに小学生の子ども実行委員がいて、中学生の子ども実行委員がいて、それを支えるサポーターがいます。中学生をリーダーとして立たせてあげることで、小学生は中学生に支えられると同時に中学生リーダーに憧れを抱きますし、中学生はより難しいことをやるのけるサポーターに支えられると同時に憧れを抱きます。私自身、実際にそうやって憧れ続けたことが今の立場につながっています。そうやってミニふくおかで育った人材が、現場の運営チームを構成してほしいと思っています。

これまでのミニふくおかでの活動を通して、子どもに新たな体験や学びの機会を提供し、子どもたちの未来を豊かにすることに貢献することが私の目標になりました。自身で子どものまちプロジェクトを主催したり、ミニミュンヘンの方と意見交換したことなど、これまでの経験が今後のミニふくおかや子どものまちの発展につながればと思っています。



サポーターの視点 #1

市役所チームサポーターリーダー 吉岡 秀悟

子どもの成長を間近に見るだけでなく、自身も大きく成長できた

ミニふくおか2023で市役所チームのサポーターリーダーを務めさせていただきました、吉岡秀悟です。

市役所のまちの中での役割は、働いた市民が持っている労働証明書を換金する「銀行」、クエストカードの管理を行う「クエスト管理所」、落とし物の預かりや困っている市民を助ける「インフォメーション」の3つでした。準備段階でクエストチームと合同チームになったため、市役所・クエストチームに所属していた子ども実行委員やサポーターは、クエストの運営も担当しました。

私が市役所チームのサポーターリーダーを任せられたとき、リーダーとしてチームをまとめられるかどうか不安でした。従来の市役所の機能に加え、ミニふくおか2023からの新たなシステムである「クエスト」の運営を任せられていたためです。クエストは実際に試してみないと分から

ない部分が多く、子ども実行委員、サポーターともに力を入れて準備を行いました。徹底的に準備を行った甲斐もあり、クエストセンターに長蛇の列ができるほど人気がありましたが、「複数人で協力するクエストだけ明らかにチャレンジ数が少ない」という問題が、1日目終了時点で浮き彫りとなりました。この問題を解決するために、当日市民にクエストをクリアするコツや、人数が足りない時の対処法などをアドバイスして、苦手なクエストにも挑戦してもらうという工夫をしました。アドバイスを行う際に、当日市民の気持ちを受け止めたうえでアドバイスを行っていた子ども実行委員の姿が、特に印象に残っています。結果として、2日目は1日目に比べて約2倍のハピを集めることに成功しました。

サポーターリーダーとして活動して、子どもの成長を間近で見ることができただけでなく、自身も大きく成長できたと感じます。ご協力いただいた皆様、本当にありがとうございました！

サポーターの視点 #2

メディアチームサポーターリーダー 小山 聖石

苦手なことにも挑戦したり 友達と助け合う姿に成長を感じた

会場内のさまざまな場所を取材したメディアチームのリーダーとして感じたのは、特に当日の子ども実行委員の子どもたちが頼もしかったということです。

半年前、始まったばかりの時はそれぞれ意見が合わず、上手くいかないことも多くあったのですが、回を重ねるにつれて、それぞれの考えを尊重した行動がとれるようになってきているのを感じました。中学生が仕切らず、きちんと小学生の意見もとり入れようとしているチーム、小学生がまとめているチームとさまざまでした。

本番では、「私が担当しておくので休んでください。」などの気遣いをしてもらえることも多く、小・中学生というのを忘れてしまうほどの頼もしさでした。

また、中には自分の苦手に向き合う子どももいました。人それぞれ得意・不得意はありますが、得意なことだけをす

るといっても、本当の成長にはつながりません。当日のミニふくおかでは、自分の苦手なことに挑戦する子どもも多く見かけました。苦戦しながらも、精一杯自分の力で頑張っているクエストや仕事を行う子どももいれば、友達などと助けあって行っている子どももいました。子どもたちの成長を感じられました。

当日のミニふくおかでは、まち行く子どもたち全員が笑顔でいろいろなことに挑戦していました。“個性あふれるわくわくタウン”がつくれていたのではないかと思います。

私事ですが、このミニふくおかを通して子どもたちとの関わり方などさまざまなことを学ぶことができました。将来の夢の教師に向けて大きな一歩を踏み出せたのではないかとと思っています。

ミニふくおかの関係者の皆様方、このような経験をさせていただきありがとうございました。

実行委員の視点 #1

LOCAL&DESIGN株式会社 福田 忠昭

4年ぶりの大規模開催は、 ミニふくおかリ・スタートの大きな一歩

2023年度のミニふくおかは、4年ぶりの大規模開催を実施することができました。場所は初めて使用する福岡市立南体育館で、また開催時期が3月ということもあり、新たに検討することが多かったのですが、無事に開催できて何よりでした。

コロナ禍によって大規模開催ができない期間は、これまでのミニふくおかのあり方を見直す貴重な時間だったように思います。社会の中での働き方の考え方も大きく変わりましたし、一人ひとりの多様な価値観を尊重する社会の重要性がますます高まってきた中で、ミニふくおかも変わっていかねばいけないと考えていました。

今回のミニふくおかで大きく変わったのは「クエスト」という取り組みを導入し、「働く」こと以外に多様な時間の過ごし方ができるようにしたことかと思えます。子どもた

ちだけでなく、ほとんどの大人も当日までこのクエストとお店や学校、公共事業などのこれまでの過ごし方がどのように成立するのかイメージがわかかなかったと思います。

しかし、ミニふくおか当日は「働く」、「学ぶ」、「遊ぶ」以外にも多様な「まちとのかかわり方」が生まれていたことは大きかったのではないかと思います。今後、さらに子どもたちが主体的にまちとの新しい関係性を作っていけるように、しっかりとノウハウを継続していくことが大切だと思えます。

また、3年間のブランクは、非常に大きな空白の時間となってしまいました。子ども実行委員からサポーター、そしてミニふくおかの運営をこれから担ってほしい若い世代にとって、継続することで、確実にバトンを次の世代に渡していく仕組みがミニふくおかにとってとても重要なことだとも気づかされました。

ミニふくおか2023は、新しいミニふくおかのリ・スタートとして、再び大きな一歩を踏み始められたと思えます。

実行委員の視点 #2

株式会社森裕建築設計事務所 森 裕

いつの日かやりたいと思うものを 感じ取れる場所でなくてはならない

今回の会場となった南体育館は約45m×33mで、以前ミニふくおかを開催していた旧九電記念体育館とほぼ同じ比率とサイズの空間でした。これまでの通貨「ミニ」以外に公共の価値「ハピ」という概念が加わりました。個々がクエストをクリアすることによって生まれる「ハピ」は、まちを良くし公共精神を育む目的で用意されました。5つのクエストセンターには豊富な課題が用意され500人の子どもたちが往来できるように中央の広場に配置されています。過去のミニふくおかには設けていたハローワークや休憩所替わりの食堂がなくなりましたが、子どもたちは次々と自ら目的に向かい情熱的に活動を続けました。花は「ハピ」によって生み出されますが、最後にはモニュメントには付け切れないほど多くの花が生産されました。協働することで公益の価値を生み出していくことを実感できたと思えます。

本番に先立って冬休み前の子どもたちにミニふくおか計画図を描くという宿題を出しました。子どもたちが自ら運営するまちの仕組みや計画を考えるとしたらどういふものなのでしょう。2週間しかないスケジュールの中で30名ほどの計画図が提出されました。全て壁に張り出し数人が意図することを発表し講評しました。目的となる公共施設・ショップ・クエストコーナー・モニュメントが人流とともに描かれイメージが十分伝わる計画です。私たちはこれらのエッセンスを取り入れて全体を計画しました。子どもたちは自分たちの頭で描いて体験する仮想空間の創造を行いました。この体育館は児童公園ほどの大きさですから、いつでもそのスケールに出会うことができます。

良いまちとは何かという問いに「都市とは、その通りを歩いているひとりの少年が、彼がいつの日かやりたいと思うものを感じ取れる場所でなくてはならない」と答えた建築家があります。このプログラムがそんな感性をもって都市に向き合う次世代の育成につながって欲しいと願っています。

おわりに

「子どもがつくるまち ミニふくおか」は、子どもの主体性・協働性・コミュニケーション力を育み、福岡市の未来を創造的に切り拓く人材を育成することを目的にした事業で、福岡市が2012年度から始め、今年度は12回目の開催となりました。

「ミニふくおか」は、2020年に策定された第5次福岡市子ども総合計画にもあげられており、「ミニふくおか」を通して子ども・若者が夢を描けるまちをめざした持続可能な開発を子どもたちと共に進めていこうとしていましたが、新型コロナウイルス感染拡大による影響を受け、2020年から3年間は、オンラインやリアルを組み合わせたモデル「みんなのまち」の展示や小規模でのワークショップなどで継続してきました。そして、コロナ明けとなった今年度は4年ぶりに大規模イベントを開催いたしました。

ミニふくおか実行委員会では、第5次子ども総合計画の折り返し地点でもあることからこれまでの「ミニふくおか」を改めて捉え返し、これからさらに継続発展していくために4つの柱による活動計画を立てました。1つ目は、福岡市の将来について子どもたちが考える機会をつくること、2つ目はオープンな場での体験イベント開催、3つ目は子ども・若者の参画、4つ目は2日間の大規模イベント開催です。これらの一つひとつの体験や活動が3月の「ミニふくおか」開催に効果的につながっていったと思います。

今年度のミニふくおかの特徴は、大きく2つあります。1つ目は、新たなまちの仕組みとして「クエスト」を導入したことです。クエストは、まちの価値を高めるための様々なクエストをクリアすると幸せの単位（ハピ）がもらえ、ハピがたまることでみんなの幸せが形になって広場に花が飾られ可視化できるという仕組みになっています。また、クエストづくりには、子ども実行委員やサポーターも参画しています。これまでの「ミニふくおか」で定着していた、働いてお金を稼いだり、遊んだりということに加えて、クエストを体験することによって、まちでの過ごし方や楽しみ方の選択肢が広がったことと思います。子どものまちの市民はいろいろな形でクエストにチャレンジすることになるのですが、クエストは、クリアしていくことでまちづくりへの新たな気づきや視点、学びが得られる教育プログラムでもあります。クエストの試みは昨年度からワークショップで始められ、今年度、大規模イベントにて実施し、多くの子どもたちが楽しんで体験できたことは大きな成果です。

2つ目は、サポーターや若者の活躍です。「ミニふくお

か」は、公募で集まった小学5年生から中学生までの子ども実行委員が、サポーターや建築家、デザイナーなどのプロの専門家と一緒にまちの仕組みを作って、ミニふくおか当日のまちの運営をしていくのですが、当日までの活動のプロセスと一緒に活動しながら支えてくれるのが高校生以上のサポーターです。子どもの活動には、年齢が近く憧れや目標となって子どもの中にある力を引き出してくれる若者の存在がとても重要です。サポーターがいるのは「ミニふくおか」の特徴でもあります。活動の前半期に、「ミニミニふくおか」を企画運営して、子ども実行委員に「ミニふくおか」づくりのモデルを示してくれました。活動の後半期では、仕組みづくりのワークショップでファシリテーター役をして子ども実行委員の活動を支えました。今年度は、さらにサポーターや子ども実行委員をまとめる役割として大学生の子どもまちリーダーを置き、若者たちによる主体的な活動や運営も目指しました。こうした若者たちの関わりを通して子ども実行委員との関係づくりも進み、ミニふくおか当日は一丸となって協力し合い、1日目から2日目の変化と成長、そして、当日参加の市民と共に子どもたち自身による感動的なフィナーレにつながっていきました。また、サポーター、子ども実行委員が参加した福岡市の将来について考えるワークショップは、福岡市のまちづくりへの関心や参画意識の向上、ミニふくおかのまちづくりや仕組みづくりへの視点が深まるなど多くの効果をもたらす大きな経験になりました。サポーターや若者の存在は、「ミニふくおか」の事業の中心的な担い手として、これからの活躍がますます期待されます。

この事業は、福岡市（福岡市子ども未来局）と様々な専門職の方々に構成する実行委員会をつくり、多くの企業からの協賛や協力を得ながら、参加した子どもたちや若者たちとともに実施してきました。多くの可能性を秘めたこのような事業を今後も創造的に行っていくことで、子どもがたくましく育ち、福岡市の未来を創造的に切り拓いていくことを確信しています。

最後になりましたが、事業実施にご協力・ご支援いただきました多くの方々に厚く御礼申し上げます。

令和6年3月

**ミニふくおか実行委員会委員長
高宮 由美子**

協賛・協力企業

ミニふくおかは、子どもたちが多様な職種を体験し、学び、自由な発想で創造的なまちをつくるため、多くの方々に支えられ、実施できています。あたたかいご支援、本当にありがとうございます。

協賛企業のみなさま



クロレラ工業株式会社、株式会社ローソン

協力企業のみなさま

味の素株式会社、株式会社石村萬盛堂、SMBC コンシューマーファイナンス株式会社、NTT 西日本、九州電力株式会社、コクヨマーケティング株式会社、株式会社如水庵、トライ・アム サンカクヤ、西日本鉄道株式会社、福岡倉庫株式会社、福岡トヨタ自動車株式会社、株式会社ふくや、フジパン株式会社、株式会社和光薬品

(敬称略・順不同)

LEARN PLAY WORK

ミニふくおか2023 事業報告書

【編集・発行】 ミニふくおか実行委員会

【発行日】 2024年3月31日

【web】 <https://minifukuoka.jp>

